

令和7年度 教育課程特例校における特別な教育課程【実施状況報告】

箕面市立第六中学校

1.概要

箕面市では平成27年4月から教育課程特例制度を活用し、箕面市立中学校の全学年において、「英語コミュニケーション科」を設定し、全ての学年で毎日英語に触れる取り組みを行っています。

市内の中学校では、年間140時間(週4時間)の外国語科(英語)に加えて、総合的な学習の時間から年間30時間削減し、「英語コミュニケーション科」の授業時数に充てています。英語コミュニケーション科を週に1時間程度設定することで、毎日英語に触れられる環境づくりを行うことができます。特別の教育課程を実施することで、9年間を通して子どもたちが毎日英語に触れられる環境づくりを行っています。

2.学校関係者からの意見（実施の成果及び課題など）

- ・週1時間の英語コミュニケーション科の授業では、小学校で学んだことや週4時間の外国語科(英語科)で学んだことを活かして、やりとりする活動に取り組んでいる。
- ・英語コミュニケーション科の授業には、英語指導助手(ALT)が常にいるので、リアルな英語に触れることができる。
- ・令和7年度の学校教育自己診断の「子どもは、英語でやり取りしたり、発表したりすることに、前向きに取り組んでいる。」(保護者対象)に対する肯定回答率は42%だった。また、箕面子どもステップアップ調査の「英語を使ってコミュニケーションを図ることが楽しいと思いますか。」(生徒対象)に対する肯定回答率(3学年の平均)は68.7%だった。教材づくりや授業の進め方等を工夫する必要がある。

3.今後に向けて（課題の改善のための取組など）

- ・既習事項を駆使して、言いたいこと、表現したいことを書いたり話したりする活動だけでなく、自分の知らない英語に出会っても、推測しながら英語を聞いたり読んだりする活動を通して、英語力とコミュニケーション力を伸ばしていきたい。
- ・生徒たちの興味・関心のあるテーマや、生徒たちが将来、出会うべき事柄等を取り上げ、生徒たちが主体的に課題設定、課題解決できるような教材づくりを進めていきたい。
- ・生徒がチャレンジする場面づくりについて工夫したい。